

「地球深部探査船」の船名決定について

海洋科学技術センター（理事長 平野拓也）は、2004年（平成16年）に完成を目指している「地球深部探査船」の船名を平成13年3月1日より5月15日まで、小、中、高校生並びに一般より募集し、多くの応募をいただきました。この度、「地球深部探査船」船名選考委員会の選考を経て決定いたしましたのでお知らせいたします。

1. 決定船名 「ちきゅう」
2. 命名者 山田 光輔（やまだこうすけ）君 9才 （東京都葛飾区）

小松南小学校 4年生
（同名応募者248名からの抽選により決定）

3. 応募状況

- (1) 応募期間
平成13年3月1日より5月15日まで 76日間
- (2) 応募総数
20,434件
内訳 ハガキ 8,718件
ホームページ 1,755件
キャンペーン 9,961件
- (3) 応募割合 小、中学生 49%
一般その他 51%

4. 選考方法

有識者で構成する船名選考委員会の審査による選考。

5. 選定理由

深海底下の“マントル”を目指し、21世紀の海洋科学技術センターのスターになるべく誕生する最新鋭の科学掘削船、「地球深部探査船」は我々の住む大いなる地球の謎に挑む船です。公募で最上位となった「ちきゅう」は、探査作業の対象そのものの名前であるとともにグローバルな英知の結集をイメージできます。このような議論から「地球深部探査船」の最もふさわしい名前として「ちきゅう」を選定しました。

6. 船名選考委員会委員

- (1) 奈須 紀幸 （委員長：東京大学名誉教授）
- (2) 川勝 平太 （国際日本文化研究センター教授）
- (3) 林田 英樹 （国立科学博物館館長）
- (4) 浅井 恒雄 （日本科学技術ジャーナリスト会議事務局長）
- (5) 野中 ともよ （ジャーナリスト）
- (6) C. W. ニコル （作家、探検家、ナチュラリスト）
- (7) 楠田 枝里子 （司会者・エッセイスト）
- (8) 大塚 洋一郎 （文部科学省研究開発局海洋地球課長）
- (9) 山本 潤正 （海洋科学技術センター理事）

問い合わせ先：
海洋科学技術センター
総務部 普及・広報課 志村、内田
電話 0468-67-3806

IODP全体スケジュール

年度	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	
IODP (科学計画検討)	科学計画検討			計画準備			IODP実施			
	IODP科学検討委員会 (IPSC)			暫定枠組 (ISAS)			IODP科学諮問委員会 (IODP SAS)			
日本 (地球深部探査船) (事前調査)	設計			起工	進水	建造		引渡	慣熟訓練	国際運用
	事前調査方策検討			事前調査			慣熟訓練		国際運用	
米国	ノンライザー船予算等確保作業					ノンライザー船準備		ノンライザー船運用		



概略主要寸法
 長さ 210m
 高さ 110m
 幅 38m
 乗組員 150名
 総トン数 約 57,500トン

「地球深部探査船」
 海洋科学技術センター

深海地球ドリリング計画

地殻を形成する活動やそれを変形させる活動のほとんどは、海洋の下で起こります。また過去の地球環境の変動の歴史は海底の堆積物に保存されています。地球環境変動の解明や地震発生過程の解明等のためには、海底下深部の岩石資料を直接に掘削採取・分析したり、掘削孔を利用して地震計、歪み計、水圧計等を長期間に亘って設置しその動きを計測することが不可欠です。

海洋科学技術センターが提唱した深海地球ドリリング計画は、国際協力の下、日米が主導する新しい深海掘削計画（統合国際深海掘削計画：IODP）へと発展し、海洋科学技術センターが建造する地球深部探査船（世界で初めてライザー掘削技術を備えた科学用掘削船）と米国の従来型（ノン・ライザー）掘削船の2船を主として運用して行われる予定です。これら2船の提供する新しい技術と最新の研究設備によって、地球科学と生命科学に関する飛躍的な発展の機会を提供することが期待されています。

地球深部探査船

主要寸法

クラス	: NK, DPS-B
船体全長	: 210m
垂線間長	: 192.0m
船体全幅	: 38.0m
深さ	: 16.2m
喫水	: 9.2m
総トン数	: 約 57,500 トン
乗組員	: 150 人

稼働状態における環境条件

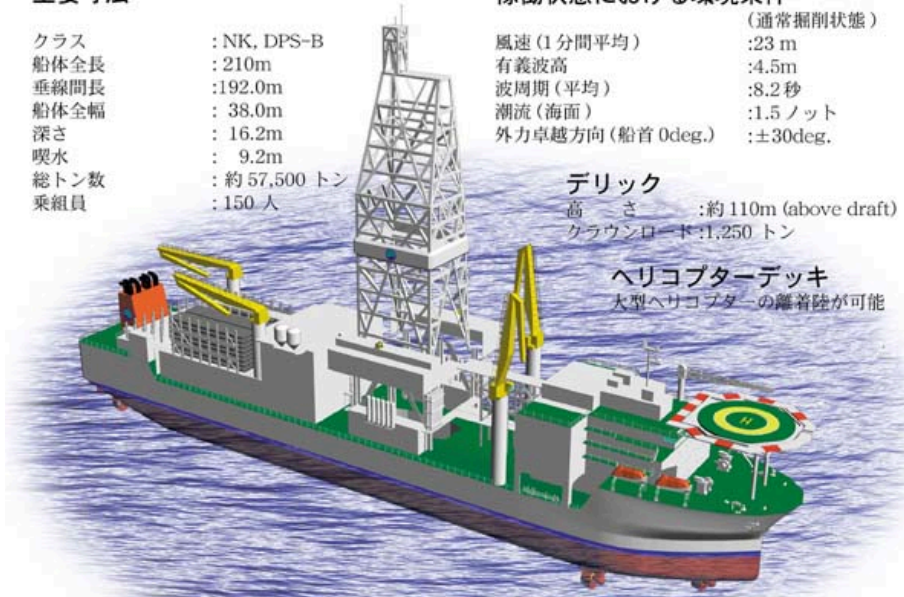
	(通常掘削状態)
風速 (1分間平均)	: 23 m
有義波高	: 4.5m
波周期 (平均)	: 8.2 秒
潮流 (海面)	: 1.5 ノット
外力卓越方向 (船首 0deg.)	: ±30deg.

デリック

高さ : 約 110m (above draft)
クランロード : 1,250 トン

ヘリコプターデッキ

大型ヘリコプターの離着陸が可能



ライザー使用時における掘削能力

最大稼働水深 : 4,000m (初期稼働水深 2,500m)
ドリルストリング : 12,000m (初期 : 10,000m)

サブシーシステム

21 インチライザー : (初期 : 2,500m, 最終 : 4,000m)
BOP : 2x アニュラータイプ 18-3/4" 10,000psi
5x ラムタイプ 18-3/4" 15,000psi

スラスタ

船首トンネルスラスタ : 1x 2,550kw
アジマススラスタ : 6x 4,100kw

居住区画

個室 : 128 室
二人部屋 : 11 室
公室 : 医務室, 娯楽室, 食堂